

令和元年度 大田区区民協働推進会議（第4回）

日時：令和2年2月25日（火）

場所：本庁舎9階 902会議室

【次第】

- 1 令和2年度地域力応援基金助成事業（チャレンジ、チャレンジプラス助成）の審査について
- 2 令和元年度調査研究テーマについて
- 3 その他

【出席者】

委員：志村・櫻井・柳谷・中島・石垣・小白木・中澤・中原

事務局：地域力推進部長・区民協働担当課長・区民協働担当4名・生涯学習担当5名

NPOサポートセンター1名・区民活動支援施設蒲田（mics おおた）2名・区民活動支援施設大森（こらぼ大森）2名

【会議録】

事務局	<p>定刻になりましたので、令和元年度 第4回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日、牛山副会長、小林委員、酒井委員、小倉委員からご欠席の連絡をいただいております。ただいま、委員12名のうち8名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第6条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。</p> <p>中島会長にご挨拶をお願いいたします。</p>
会長	《会長あいさつ》
事務局	ありがとうございました。ここからは、中島会長に進行をお願いいたします。
会長	小泉部長から挨拶をお願いいたします。
	《部長あいさつ》
会長	<p>会議をはじめさせていただきます。</p> <p>お手元の会議次第に沿って進めたいと思いますが、時間の制約もございましたので20時30分までに会議を終了したいと考えております。ご協力をお願いいたします。</p> <p>「令和2年度地域力応援基金助成事業（チャレンジ助成・チャレンジプラス助成）の審査」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。</p> <p>《審査資料（秘）配付》</p> <p>《委員全員で審議》</p> <p>《配布資料回収》</p>
会長	<p>次に、「令和元年度 調査研究テーマ」を議題といたします。</p> <p>今回、取り組んでいるテーマは、「協働と学びの地域づくり」です。本日は、区の間支援組織にあたる、区民活動支援施設大森（こらぼ大森）と区民活動支援施設蒲田（mics おおた）のスタッフにも本会議へ同席してもらっています。</p> <p>また、調査にあたり事務局にご協力をいただいたNPOサポートセンターのスタッフに本会議へ同席していただき、調査結果の説明をお願いしたいと思います。</p>

会長	<p>《区民活動支援施設大森（こらぼ大森）、区民活動支援施設蒲田（mics おおた）、NPO サポートセンターのスタッフが入室》</p> <p>自己紹介をお願いします。</p>												
会長	<p>《各スタッフあいさつ》</p> <p>まず、団体へ実施したヒアリング調査の概要について事務局よりお願いします。</p> <p>《資料に沿って説明》</p>												
事務局	<p>「協働と学びの地域づくり」の実現にむけ、「区民協働」及び「生涯学習」施策の実効性を高めるため、福祉分野、地域分野、学び分野の3つの分科会に分かれて、個々の施策の対象である「地域活動団体」及び「社会教育団体」を対象にヒアリング調査を行いました。</p> <p>調査対象団体、日程、参加者などの概要は資料のとおりです。</p> <p>なお、各分野別の調査結果については、後ほど詳細を説明いたします。</p>												
	<p>1 福祉分野</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="300 875 679 920">調査対象団体</th> <th data-bbox="679 875 1059 920">ヒアリング日程</th> <th data-bbox="1059 875 1445 920">参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="300 920 679 1066">おおた TS ネット</td> <td data-bbox="679 920 1059 1066">12月3日（火）</td> <td data-bbox="1059 920 1445 1066">志村委員、柳谷委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた</td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1066 679 1167">特定非営利活動法人 六郷ユースコミュニティー</td> <td data-bbox="679 1066 1059 1167">12月17日（火）</td> <td data-bbox="1059 1066 1445 1167">NPO サポートセンター、事務局 mics おおた、こらぼ大森</td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1167 679 1308">オレンジ茶房「縁（えにし）」</td> <td data-bbox="679 1167 1059 1308">12月18日（水）</td> <td data-bbox="1059 1167 1445 1308">柳谷委員、小林委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた</td> </tr> </tbody> </table>	調査対象団体	ヒアリング日程	参加者	おおた TS ネット	12月3日（火）	志村委員、柳谷委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた	特定非営利活動法人 六郷ユースコミュニティー	12月17日（火）	NPO サポートセンター、事務局 mics おおた、こらぼ大森	オレンジ茶房「縁（えにし）」	12月18日（水）	柳谷委員、小林委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた
調査対象団体	ヒアリング日程	参加者											
おおた TS ネット	12月3日（火）	志村委員、柳谷委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた											
特定非営利活動法人 六郷ユースコミュニティー	12月17日（火）	NPO サポートセンター、事務局 mics おおた、こらぼ大森											
オレンジ茶房「縁（えにし）」	12月18日（水）	柳谷委員、小林委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた											
	<p>2 地域分野</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="300 1391 679 1435">調査対象団体</th> <th data-bbox="679 1391 1059 1435">ヒアリング日程</th> <th data-bbox="1059 1391 1445 1435">参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="300 1435 679 1581">おおたコマプロジェクト</td> <td data-bbox="679 1435 1059 1581">11月25日（月）</td> <td data-bbox="1059 1435 1445 1581">中澤委員、小倉委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた、こらぼ大森</td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1581 679 1727">特定非営利活動法人 CONNECT</td> <td data-bbox="679 1581 1059 1727">11月29日（金）</td> <td data-bbox="1059 1581 1445 1727">小倉委員、 NPO サポートセンター、事務局 こらぼ大森、mics おおた</td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1727 679 1890">特定非営利活動法人 大田・花とみどりのまちづくり</td> <td data-bbox="679 1727 1059 1890">12月22日（日）</td> <td data-bbox="1059 1727 1445 1890">中澤委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた</td> </tr> </tbody> </table>	調査対象団体	ヒアリング日程	参加者	おおたコマプロジェクト	11月25日（月）	中澤委員、小倉委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた、こらぼ大森	特定非営利活動法人 CONNECT	11月29日（金）	小倉委員、 NPO サポートセンター、事務局 こらぼ大森、mics おおた	特定非営利活動法人 大田・花とみどりのまちづくり	12月22日（日）	中澤委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた
調査対象団体	ヒアリング日程	参加者											
おおたコマプロジェクト	11月25日（月）	中澤委員、小倉委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた、こらぼ大森											
特定非営利活動法人 CONNECT	11月29日（金）	小倉委員、 NPO サポートセンター、事務局 こらぼ大森、mics おおた											
特定非営利活動法人 大田・花とみどりのまちづくり	12月22日（日）	中澤委員 NPO サポートセンター、事務局 mics おおた											

3 学び分野

調査対象団体	ヒアリング日程	参加者
うのき水辺の楽校協議会	12月10日（火）	NPO サポートセンター、事務局 mics おおた、こらぼ大森
大田デジカメ・ビデオクラブ連盟	12月12日（木）	NPO サポートセンター、事務局 こらぼ大森
自分史・年輪ひこばえの会	12月16日（月）	NPO サポートセンター、事務局 mics おおた、こらぼ大森

会長

次に、中間支援組織について事務局より説明をお願いします。

《資料に沿って説明》

事務局

- 1 中間支援組織とは
- 2 中間支援組織の役割
- 3 中間支援業務

会長

次に、各分科会の報告に移ります。この間、各分科会で議論をいただいたかと思えますので、それぞれより報告を願います。まず、「福祉」をお願いします。

事務局

分科会「福祉」は、第1回を令和元年11月5日に開催、第2回を令和2年1月21日に開催いたしました。所属されました志村委員、柳谷委員、小林委員の皆様にはお忙しい中、ご出席をいただき大変にありがとうございました。会議の概要及びヒアリング調査の結果を説明いたします。

《資料に沿って説明》

第1回分科会「福祉」では、現代の地域課題、現代社会の課題とめざす社会像を確認したうえで、設立時期や支援対象別にヒアリング調査団体を選出しました。

第2回分科会「福祉」では、ヒアリング調査の結果からNPOサポートセンターの分析内容と各委員活動レポートの内容に相違がないことを確認し、各委員から次のような主な意見がありました。

- ・区民活動団体は基本的に地域課題を解決するために存在しているので、無くなるのが目的ではある。自己満足になってくるケースが見受けられる。新しいものが多く出てくる方が発展的に感じる。
- ・マネジメントスキルを持った人材が少ない。
- ・ヒアリング調査に同行した際に、活動の場の確保が課題だと感じた。
- ・課題解決のアプローチは異なるが、福祉分野の団体の課題も地域分野と同様な課題を抱えているのではないか。団体が抱える課題は福祉分野と地域分野ともに同じである。
- ・どこに相談したらいいか分からないことが起きた時に、共に考えられる位置につくことで、本人の相談力を支え、地域課題としてあぶり出していければよいと考え、“繋ぐ”ことを意識している。
- ・今後の活動としては、変わりつつある環境や生活で必要な事柄に敏感になり、発せられたニーズを捉えていくために、アンテナを張りながら企画を立てる必要がある。そのためには、所属団体だけではなく、他団体との連携協働から生まれる、新たな観点を取り入れながら、進めて行けるとよい。

NPO サポート センター	<p>次に、ヒアリング調査の結果については、NPO サポートセンターから説明をお願いします。</p> <p>おおよそ3団体とも10～30万程度の資金運営を行っており、主に補助助成・委託事業が大きい印象を受けました。対して自由度の高い会費・寄付などは少ないのが実情です。設立の経緯は、地域の課題を把握し、個人に対して支援していこうとする福祉分野の傾向は把握できました。</p> <p>個人の困難ケースに対応していくということで、ネットワークという意味で多様な団体との連携がされていた印象があります。</p> <p>潜在的な課題を掘り起こすためにネットワークを活用しており、運営しているイベントなどの場での関わりに応じて、しかるべきところに繋げている実情があり、他の分野（地域・学び）よりも多様な連携先がある印象を受けました。</p> <p>団体のターゲット、ゴールによって連携先は多様であり、きめ細かい連携は持っていますが、属人的な部分もあり、仕組化されてはいません。</p> <p>情報の発信・収集は、活動の紹介を通じて地域社会の課題を発信しているのが実情です。</p> <p>事業の対象によって媒体は変えていますが、主に紙を中心にした情報発信が多い印象で、収集においては連携・協働についての情報収集をしています。</p> <p>支援対象をしかるべき場所へ繋げるための連携・協働はあるものの、自身の団体に不足している資源を補う形での連携、協力依頼にとどまるのが実情で、協働して課題解決、新しいものを生み出す協創の域には達していません。</p> <p>連携・協働すれば、集客や情報の収集など活動の域が広がるため、積極的または充実させていきたいという希望はあるという意識はありますが実態は難しいです。理由として、相談先が分からない、協働相手と繋がれない、繋がったとしても一緒に事業を続けるのは難しく伴走支援がないため断ち切れてしまうことがあげられます。</p> <p>連携・協働するための組織の体力も必要と考え、持続可能な組織運営には主に3点の課題があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① その時々々の事業は実施できるが、活動の目的・ビジョンなどの中長期的に先を見据えた事業運営が不足している。特に立ち上げ期の団体はイベントをすることを目的としており、その先を見据えておらず、組織経営の体幹トレーニング・ビジョン共有が必要だと思います。 ② 人材の育成について、理事にまで至ったケースもあるが、今後の事業運営をどうしていこうかとする積極的な人材育成は不足しています。 ③ 資金調達について、行政からの補助助成が大きいいため、自己資金調達率を上げる必要があります。 <p>また、中間支援施設について、認知度が低く利用経験が少ない傾向があります。</p> <p>福祉関係のネットワークが多いため、今後はNPO支援だけでなく福祉分野における人材の支援なども必要ではないかと思われま。</p>
会長	<p>ただいまの説明内容について、質問・意見等がございましたらご発言願います。</p>
会長	<p>連携・協働は難しい現状です。地域において申し上げますと、私は町会長を務めておりますが、高齢者ばかりの集まりで若い人が入らず人材不足です。</p> <p>さらに、地域の課題が多様化しており、簡単にできたことが複雑化しており対応が難しく、どこの町会も同様な問題を抱えています。そこで、町会の事業に賛同する人を募集し、町会独自で他地区からも支援員を確保するなど人材確保にも努めています。</p> <p>また、地域を知らなければ連携・協働の結びつきを実りません。地域の様子を行政職員にも見てもらわないと頂いたものがすぐに実行できるとは限りません。</p>
課長	<p>高齢化による人材不足について、町会加入率は10年前と比較して10%ほど低下しており、厳しくなっている危機感は理解しています。</p>

	<p>地域の課題が多様化して難しいということも直面している課題であり、行政施策をいくら増加しても、満たされる部分は同等に比例しているかという難しい面があると捉えております。地域活動する団体が早期発見し必要な支援を繋げるなど地域で対応する力を向上させる必要があると考えます。調査分析結果のとおり、活動団体は助成に依存し、組織運営スキル・継続性に課題があるとされました。</p> <p>また、職員定数の減少や、コロナウイルスの影響による区の歳入の落ち込みが予想されるなど、区の支援が潤沢に続くとは考えにくい現状です。</p> <p>そこを理解していただいたうえで、区民活動団体が地域のためにどう貢献できるのかをご議論していただきたいと考えております。</p> <p>会長のご発言の通り、職員も地域へ出て、課題を把握し汗をかくなど、区もやれることは徹底的にしていきます。一方で現実的な問題もありますので、改めて地域でできることをご議論していただければありがたいと考えます。</p>
会長	<p>残りの時間もありますので、次にまいります。「地域」お願いします。</p>
事務局	<p>分科会「地域」は、第1回を令和元年11月5日に開催、第2回を令和2年1月21日に開催いたしました。所属されました櫻井委員、石垣委員、中澤委員、小倉委員の皆様にはお忙しい中、ご出席をいただき大変にありがとうございました。会議の概要及びヒアリング調査の結果を説明いたします。</p>
事務局	<p>《資料に沿って説明》</p>
事務局	<p>第1回分科会「地域」では、現代の地域課題、現代社会の課題とめざす社会像を確認したうえで、設立時期や分野別にヒアリング調査団体を選出し、各委員から次のような主な意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新旧の住民や外国人などこれまでと住民の特性が異なってきており、また同じ区でも地域性が違うため、それぞれの特性を見直して課題を解決していくことが求められる。 ・話を聞いて欲しい人が増えている。 ・SNSの普及に伴って、顔を合わせたコミュニケーションをとらなくてもよい環境になっている ・コミュニケーションの苦手な人をどのように引っ張っていくのかが課題である。 <p>第2回分科会「地域」では、ヒアリング調査の結果から設立時期や事業規模の違いがあるが、それぞれの課題及び改善策が類似ことを確認し、各委員から次のような主な意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の問題点はいろいろなプロジェクトに共通する。 ・団体の活動が知られていないのは、発信の支援や団体と繋げるなどのサポートが足りていない。 ・情報発信と繋ぐことが重要だが、どこがどのように支援を行っているのかが現状分からない。 ・地域の安全、安全なまちづくりに区民活動団体が貢献できると思われる。
NPO サポート センター	<p>次に、ヒアリング調査の結果については、NPOサポートセンターから説明をお願いします。</p> <p>全体的な傾向は福祉分野の団体と同傾向で行政の補助助成中心の運営です。他分野よりも相談先、事業として連携・協働先をより積極的に探している印象を受けました。不足した自組織のリソースを補完するために連携したり、組織の人的ネットワークを活用した協働のあり方が見られました。</p> <p>行政職員との繋がりから、相談に乗ってもらい連携している実情も垣間みられました。また、連携・協働の意向はあるが、中間支援組織が協働のコーディネートを担う実</p>

	<p>態を知らないように感じます。自団体で悩んで考えている実情があり、団体メンバーが不足したリソースを自助努力でコーディネートしている状態でした。</p> <p>組織課題は福祉分野とまったく同じで持続可能な組織運営が課題です。高齢化による事業承継、資金難、活動の場の不足なども明らかになりました。</p> <p>出張所でも団体と同様な事業を検討しているようですが、団体の取り組み内容の詳細をヒアリングするまで互いに取り組みを知らず、今回のヒアリングを通じてそれらの情報が共有されたことから、活動を深掘しないと分からない、連携・協働の可能性が見えるのに繋ぎ手がないので断ち切れてしまいもったいない気がしました。</p> <p>窓口を明確化するなど、マッチング・コーディネートをシステム化し、機能強化すれば、事業連携の可能性があると感じます。</p>
会長	<p>ただいまの説明内容について、質問・意見等がございましたらご発言願います。</p>
櫻井委員	<p>去年、私自身も団体同士が繋がればいいなと思い、知っている団体を紹介したことがありましたが断ち切れてしまい、継続することが難しいと感じました。</p>
志村委員	<p>地域を意識した分科会のため、意見交換の中でさまざまな地域資源が取り上げられていると感じました。地域性、地域主体と言葉がぼんやりしていて、いったい誰が、という具体的なところまでいけると安心します。</p>
柳谷委員	<p>「大田・花とみどりのまちづくり」について、歴史が長くスタッフの中心年代が高いため、若い方など新しい人が入りにくい環境なのかなと思いました。</p> <p>「おおたコマプロジェクト、CONNECT」は、時代とともに必要とされるニーズに合わせた形で新たに生まれた団体であり、「大田・花とみどりのまちづくり」のように継続していくために、新しい方・人材を巻き込んでいって続けて欲しいです。</p>
会長	<p>時間の関係もありますので、次にまいります。「学び」お願いします。</p>
事務局	<p>分科会「学び」は、分科会準備会を10月30日に開催、第1回を令和元年11月14日に開催、第2回を令和2年1月16日に開催いたしました。所属されました小白木委員、中原委員、酒井委員の皆様にはお忙しい中、ご出席をいただき大変にありがとうございました。会議の概要及びヒアリング調査の結果を説明いたします。</p> <p>《資料に沿って説明》</p> <p>分科会準備会では、現代の地域課題、現代社会の課題とめざす社会像を確認したうえで次の点を確認しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人や団体が、地域に貢献できることについての問いを立てるとともに、「地域共生社会」の実現をめざすために、区民一人ひとりの主体的な学びの成果を活かしていく「学びの循環」が重要であることを示していく。 ・区民のライフステージにあった生涯学習の機会が保障されるとともに、主体的な学習の成果が適切に評価され地域社会へと結びつくことを目標とし、区民活動団体とスタンスを分けている社会教育関係団体のヒアリングをとおして、学びと地域活動がどのように繋がっていくのか明らかにする。 <p>第1回分科会「学び」では、分科会準備会での協議内容の確認し、地域から沸きあがってきた団体、区の講座から学習を継続している団体、ITの活用を目的にしている団体別にヒアリング調査団体を選出し、各委員から次のような主な意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びから地域福祉活動への推進にどのようにして転化、次の段階へいっかが肝である。その発展をどのようにして、色々な団体（趣味活動も含め）に訴えていっかを考える。 ・社会教育団体には法的な規定はないが、会として地域社会に貢献していくことが自分

	<p>の学びと会の成長に繋がるということが「学び」の中にあることを示し、その循環を作 っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学び」は、一般的な基盤。誰でも参加できるので、最も重要。この人が地域のこ とを考えたり、地域の中の問題に気づいたりする。 ・自分史の団体は興味深い。人生 100 年時代、自分はどのように老い、死を迎えるのか 考え、元気な間に何をやっていくかが重要。 <p>第 2 回分科会「学び」では、ヒアリング調査の結果を共有し、各委員や事務局から次 のような主な意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ子どもが次は下級生に教えるようになる、といった子ども同士の学び合い（学 びの循環）ができるのは、時間をかけて活動を続けてきた賜物。 ・新しい IT 機器を導入しなくとも、アナログ的な学習形態の良さはある。その団体の 良さを生かした主体的な活動を行うことが重要。 ・連携するという事は、必ずしも団体単位でのことのみではない。個人同士の繋がり も連携である。 ・活動を通して自分に向き合うということは、「自分の住んでいる地域に向き合う」と いうことに繋がる。 ・地域活動は、地域に支えられて協働が成り立ち、活動を通じた学びによって高次の取 り組みへと発展する。この過程での支援が重要であり、活動団体を見守り、相談できる 場づくりが効果的と考える。 ・「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するためには、大田区民一人ひとりの 「個人」の気づきや変化が重要だと考える。個人の気づきや変化が、団体の気づきや変 化に繋がり、それが地域や社会の実践へと展開していく。そのためには、義務的なアプ ローチではなく、一人ひとりの「関心」を尊重することが、継続的な活動へと繋がって いくと考える。 <p>次に、ヒアリング調査の結果については、NPO サポートセンターから説明をお願いし ます。</p> <p>NPO 等の地域や福祉活動分野にも参考になる情報がありました。大きく違う部分は、 事業収入の構造で、細々であっても、会費収入をきちんととって活動していた団体が多 くありました。</p> <p>今後、会費収入を維持するため、人材の不足・高齢化などの兼ね合いでどうやって人 材を確保していくのが問題です。</p> <p>人と繋がれないので紹介して欲しいなど、連携・協働の意向はありました。</p> <p>個から組織への繋がり、講座の講師など主たるキーパーソンがコーディネーター的 な役割を担い、団体設立のチャレンジの機会を提供してきた構造がみえました。</p> <p>個人の方々も、デジカメ・自分史を書くというノウハウをもって講座の講師に役立て たり、施設のビデオ撮影を個人的に請け負ったりすることも見受けられました。</p> <p>ただし、課題は個人の興味関心を大事にしているため、公共性・社会課題に全てが繋 がるわけではないということです。</p> <p>丁寧な情報提供や選択肢の一つとしてマッチングの機会を提供すれば、相談に乗りた い、やるチャンスがあるなら広げる意思もありました。組織として応じていない、可視 化されていないが取り組み実態はあるこの部分が今後の可能性でもあるとも考えます。</p> <p>また、組織の課題は資金不足、人材の確保など他の福祉・地域分野とも共通します。</p>
NPO サポート センター	
会長	ただいまの説明内容について、質問・意見等がございましたらご発言願います。
中原委員	全体的なことを総括して申し上げると、福祉分野・地域分野・学び分野の全てがオー バーラップしている。これだけ大田区で活動している団体があり、これがどうやって連

	<p>携することで大田区の地域を豊かにしていけるのか、大きな意味でオーバーラップしている今の団体活動同士を繋ぎ合わせることで、何か新しい力を生み出すことができるのではないのかと感じた。そのためには、我々は何をすべきなのか、中間支援組織、行政、社会福祉協議会は何をしていけばいいのかということをもう少し話を詰めていけばいいかなと思いました。</p>
柳谷委員	<p>「うのき水辺の学校」は昨年度の経過観察に伺ったが、その時と同じ内容として、連携先と出会う機会がない、相手を紹介して欲しいとかが上がってきており残念に思っています。各団体の方々が出会うきっかけを求めて、どういう人と出会いたいのかを、mics おおた、こらぼ大森に相談するように伝えてきたのに現状が変わっていません。団体自身がどういったところと連携したいのかを気が付くための支援も必要ではないかと感じました。</p>
会長	<p>なんでも区に頼むのではなく、自分たちでも調べるきっかけづくりも検討していくべきだと思います。</p> <p>残りの時間もありますので、次に、調査結果の分析と課題解決のための提案について、事務局より説明をお願いします。それにしても文字が小さくて資料が読みにくいです。</p>
事務局	<p>申し訳ございません。見やすいように資料を拡大など工夫して郵送いたしますので、委員各自で資料の確認を願います。次回に説明させていただきたいと考えております。</p>
会長	<p>承知しました。</p>
課長	<p>今回の会議までにお約束とお願いをさせていただきます。まず、お約束ですが、資料を見やすいように拡大など工夫して郵送し、説明は次回の会議で行います。</p> <p>次に、お願いとして、本日頂いた議論の中で、団体の広報、属人的リーダーシップ、自由度の高い会費収入、団体として目標を持つなどの課題があげられましたが、こうした課題に対して、区民活動団体などの地域自らは何ができるのかという観点で議論を頂けるとありがたいです。</p> <p>時代とともに新しい活動が多く産まれることが発展的という意見も分科会の中でございました。大森にある商店街のなかの活動事例では、最初は高齢者の居場所から被災地の物産を含むニュアンスへと形を変えていきました。</p> <p>このように相手が変わり目的も変え、同じものを同じようにするのではないことが、新しい時代には必要であると考えます。</p> <p>また、繋ぎ合わせれば新しい価値が生まれるとも意見をいただきましたが、繋ぎ合わせるきっかけをどうすればつくれるのか、議論を頂けるとありがたいです。よろしくお願いたします。</p>
会長	<p>他に特に質問等ないようでしたら、予定しておりました議題は以上でございます。事務局から報告はありますか。</p>
事務局	<p>現在、令和元年度地域力応援基金助成事業の次年度に向けての継続審査を実施しており、交付決定の14団体のうち11団体から継続審査の申請が受付けております。</p> <p>審査につきましては、志村委員、柳谷委員、中原委員、そして事務局から小泉部長、田村課長の5名に行っていただいております、次回3月11日には審査の結果を報告しますのでよろしくお願いたします</p>
会長	<p>承知しました。審査員の委員の皆様、よろしくお願いたします。</p> <p>次回の推進会議の日程について、事務局からお願いたします。</p>
	<p>《令和元年度 第5回は、3月11日（水）に開催》</p>

会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。

《閉会》